

向山社長メッセージ



プロジェクトを形にする正念場 —感謝と決意—

2023年度はコロナ禍からアフターコロナへのギアチェンジの一年でした。記録的な猛暑の中、社会経済活動が戻るにつれて、旅行需要の回復やオフィスに出勤する勤務へのシフトが進みました。駅や駅ビルにもお客さまが戻り、社員の皆さんの働く環境は大きく変化しました。そうした中で、より清潔さへの意識が高まったお客さまのニーズを捉えつつ、日々の仕事を丁寧に行い、安全で安心できるサービスを提供し続けてくれた社員の皆さんに、深く感謝申し上げます。

さらに、「1人の100歩より、100人の1歩」を合言葉に、本社と現場が一体となって、清掃CBMをはじめ、清掃ロボット、コードレス資機材、最新ケミカルなどの活用や資源循環の高度化を進めました。最新テクノロジーによる業務革新にあたっては、現場ごとに多くの課題があったと思います。一つひとつ解決しながら、さらに大きな一歩を踏み出してくれた社員の皆さんに心よりお礼申し上げます。

作業のスマート化による業務革新は、当社が将来にわたって事業を続けていくために必要な取り組みです。皆さんの苦勞とチャレンジのおかげで、多くの現場で生産性および収益性が向上し、当社の体質はより筋肉質なものになりました。

さて、2024年度は、これまで準備を進めてきた大きなプロジェクトを花開かせるための総仕上げの年です。2025年3月に控えるTAKANAWA GATEWAY CITYの開業と中央線12両化（グリーン車導入）では、新たに加わる多くの仲間とともに、清掃統括や清掃ロボットの群管理、バイオガス施設運営や短時間での車両折り返し清掃などの新しい取り組みをつくり上げていかなければなりません。また、東京資源循環セン

ターでは、センサーシステムや自動選別機などによる分別ラインの更新を進めます。日々の仕事を丁寧に続けながら、将来のための改善にチャレンジし続けるとともに、これらの大きなプロジェクトもしっかり実現させていきましょう。

アクセスの社長になって4年目を迎えました。これまでの3年半、社員の皆さんとともに、清掃CBM（WG①設備の強化・長寿命化、WG②出来栄の数値化・自動化、WG③作業の機械化・ロボット化）や資源循環の高度化、JR東日本東京資源循環センターのライン更新など、当社の将来をつくる業務革新に力を入れてまいりました。**【石の上にも三年】**といいますが、あきらめずに続けていけば進化が訪れると信じて、実現するまで社員の皆さんとともに尽力していきたいと思います。当社の将来のためになんとか実現させたいと強く決意しています。

1

一人ひとりの成長が 会社を成長させる

清掃やメンテナンスは日々うまくいった当たり前だと評価され、脚光を浴びることの少ない仕事ですが、車両、施設やビルを使う限り“縁の下の力持ち”としてとても重要です。

深刻化する人手不足の中、将来の需要にも応えるには、今の仕事をそのまま続けるだけでは対応できません。最新の資機材やケミカルに加えて、IoT、AI、ロボット技術を取り入れながら、最新テクノロジーを用いた業務革新で、さらに生産性を高めていく必要があ

ります。

現在、当社は、首都圏JR約300駅、西武鉄道など民鉄駅含めて約400駅、駅ビルオフィスビル約140施設の清掃・ビルメンテナンスと、約80両のパッカー車で約160箇所からの廃棄物の収集、運搬、分別を行っています。それぞれの現場は、構造、材質、経年、使用目的が異なる上に、作業者の習熟度、作業間合い、機材、ケミカル、制約事項やオーナーさまの要求レベルなど作業条件もまちまちなので、同じ条件ではありません。したがって、現場ごとに最適な手法を見極める必要があります。

同じような課題の解決事例が他社の事例や過去の事例に見つかることもあります。既往の事例も参考にしながら、自ら考え、工夫することが大切です。難しい課題にはすぐに答えが出ないかもしれませんが、一度でうまくいかない場合もあるでしょう。大変だけれども、あきらめずに工夫を重ねていくことが大事です。これがうまくいった時には、それだけ大きな喜びがあり、さらなる成長と自信につながります。仕事に面白さ、楽しさが生まれると、さらに新しい課題にチャレンジしたくなるという好循環につながり、個人の成長と会社の成長に相乗効果が生まれます。当社の社員約3,200人が1歩を踏み出す大きな力が当社の将来改革を進めていきます。

2

大切なのは「賢い働き方」 ー必要なところに人的資源を 集中させるスマートな仕組みー

駅、駅ビルやオフィスビルの清掃・メンテナンスと資源循環は、JR東日本グループの静脈にあたる仕事であり、動脈と同じように生産性向上が求められています。首都圏の開発プロジェクトにはそれぞれ開業時期があり、逆引き行程で必要な準備が整うように取り組む必要があります。

当社の存在意義 = JR東日本グループの静脈の
高度化と全体最適に貢献

- ①清掃CBMによるスマートな清掃スタイルの実現
- ②廃プラ高度リサイクルによる循環型経済（サーキュラーエコノミー）の実現

現在の仕事を着実にやりながら、さらに多くの開発プロジェクトに対応していくためには、テクノロジーを最大限に活用し、仕事のスマート化を進めていく必要があります。清掃CBMでは、WG①[設備の強化・長寿命化]により、極力手間をかけないで済むようにする、WG②[出来栄の数値化・自動化]により、汚れの状況を客観的に把握し必要なところに必要なタイミングで計画的に手を入れられるようにする、WG③[作業の機械化・ロボット化]によって、作業は極力ロボット・機材・ケミカルで省力化する、ということ徹底します。この清掃CBMは当社だけの取り組みではなく、業界全体の標準スタイルにしていきたいと考えています。

とりわけ、清掃ロボットについてはすべての現場で使いこなせるようにしたいと考えています。今や、清掃ロボットは複数のロボットを当たり前のように使いこなす段階に入っています。2024年度は、多数のロボットの群管理を実現するとともに、ホームドア清掃ロボット、分類型臭気センサーなどの実用化も進めて、早期の実用配備をめざします。

3

お互いを尊重し、 支え合う文化

当社は、約3,200人の社員の皆さんに支えられています。個々の社員の強み・職業経験・資格・ノウハウ・価値観・人生観・国籍などはまちまちで幅広く、この多様なバックグラウンドをもつ皆さんが業務革新の原動力です。

多様なメンバーの中で、コミュニケーションエラーが起こらないよう、相手の立場に立ったものの見方をすること（利他の精神）が大事です。それはめぐりめぐって自分に返ってくること（自らの成長）になります。

2024年度も、“恐れず、ひるまず、とらわれず”に、多くの課題にチャレンジしていきましょう。

今後も世の中は変わり続けます。また、人智と技術は進歩します。
過去にとらわれずに自らを変えていきましょう。